

地域の音楽活動に「好循環」作りたい

ヤマハ音楽振興会 村田雅宏常務理事 抱負を語る

本誌では、本年1月号から4月号まで4回にわたり各楽器店レポート、5月号でヤマハ音楽振興会ヤマハ音楽支援制度事務局、そして本号では楽器店座談会（30頁）と、様々な角度から「地域音楽活動支援」を中核に取材してきた。そしてその締め括りとして本頁では、ヤマハ音楽振興会の村田雅宏常務理事に、「地域音楽活動支援」の目的とその経過、今後の展望についてお話をうかがった。

（澤野）

楽器店から生きた情報を得る

——「地域音楽活動支援」の対象は、『地域の音楽文化向上に貢献する音楽グループまたは団体』と非常に広範ですが、こうした地域の音楽活動に対する支援制度を設けた目的を、まずお聞きしたいと思います。

村田 そもそもこのような地域の音楽活動グループや団体を支援する制度は、現在のところ他にはないと思います。行政や地域の団体が協力したり、協賛するケースはありますが、全国的な制度はありません。その意味で、大変ユニークな支援制度だと思っています。

当財団は、ヤマハ音楽支援制度として「音

楽奨学支援」、「留学奨学支援」、「音楽活動支援」、「研究活動支援」を行っていますが、地域の音楽活動そのものを支援させていたかどうかというのは、これまでの財団の活動理念からみて、大変意義のあることだと思っています。当財団は、音楽教育活動を通じて多くの音楽人を育て輩出してきました。ヤマハの音楽教育の目的は「音楽の喜びを人と分かち合うこと」ができる社会を作ってゆくことなんです。地域で音楽活動に取り組む音楽人たちを応援するのは、当財団の活動がようやく循環し始めた証なんだと思っています。

——「地域音楽活動支援」は2010年から始まって5年が経過したわけですが、手応えについてはいかがでしょうか。

村田 正直に申し上げると、最初は5年続くかどうかちょっと不安だったんです。と言うのは、果たして応募は本当にあるのだろうか。また全国的な制度としては前例がなく、最初から完璧な制度として運用が始まったわけではないので一抹の不安はありました。当財団が直接公募し、認定支援をするという従来の方法もありますが、たぶんそれだと実態の把握が難しく続けていかなかったかも知れません。

楽器店から地域の音楽活動の実態や声など生きた情報をいただけることが、この制度を

支えていることは間違いなく、ヤマハ音楽振興会と（ヤマハ特約）楽器店の共同作業で運用、活用されることが重要だと思っています。

また地域音楽活動と謳っている以上は、当財団としては地域の音楽普及の拠点である楽器店に窓口になっていただきたい、架け橋になっていただきたいという思い、期待もあります。

特に3年目くらいから目に見えて応募数も支援件数も増えてきて、確かな手応えを感じています。積極的に取り組んでいただきたい楽器店は、毎年継続してある件数を推薦して下さいますから、楽器店がこの制度に着目して、活用することが定着し始めたなどという実感があります。

——確かに2012年度の支援件数が64件、翌13年度が71件、14年度が72件と、支援件数が増える傾向にありますね。

村田 応募に際しては活動の様相を映像（DVD）でいただいたり、支援申請書には活動の思いや考えを綴っていただき確認しているのですが、音楽活動の内容がいずれも充実してきているので、簡単に絞りきれないところがあるんです。結果、増えたという経緯があります。

こうした傾向は大変嬉しいことでもあるのですが、その反面、地域によってはまだまだこの制度が活用されていない、知られていないところもあります。もっと広く知っていただくよう努めたいと思っていますし、支援件数については今後もっと増やさないといけないかもしれません。



村田雅宏常務理事

地域で交流深めるための手段

—— 支援認定グループ・団体は一定期間
は応募ができませんが、間を置いて応募して
くるケース、つまりリピーターもあるよう
ですね。

村田 それは音楽活動を頑張って継続して
いる証ですから、素晴らしいことだと思いま
す。また楽器店が窓口になっていることは、
単に応募をスルーさせているわけではないの
で、応募された団体やグループとの関係も深
まっているのではないかと想像しています。

支援を受けられた方が新聞のインタビュー
の中で話されていたことですが、「支援金を
いただけることはとてもありがたいが、それ
よりも自分たちの活動を認めてくれたことが
嬉しいんです。励みになります。やってきて
良かった」と感想を述べておられます。

お金の大小ではなくて、この制度そのもの

が持っている社会性や意義、そういうものを
このコメントから感じましたね。また責任も
感じました。

—— 「お金よりも認められたことが嬉
しい」というコメントは、大きなポイントで
すね。地域の楽器店はその土地に根を張って
いる、言わば音楽の拠点ですから、地域の音
楽愛好家の楽器店に対する期待や注目度の高
さがうかがえます。

村田 お客様は自分たちのやっている音楽
活動に対して寄り添ってくれているかどうか
見ているんです。仮に具体的なことはできな
くても、そういう思いを持ったスタッフがい
ると、お客様との会話が変わって来ます。
そういう意味では、地域音楽活動支援は役
に立っているかなと思っています。窓口にな
っている楽器店は、たぶんそれを実感されて
いるのではないのでしょうか。

音楽教室を開設されている楽器店には、地
域の子どもから大人まで集まってくるわけ
ですし、しかも音楽に特化した機能と設備を持
っているわけですから、もともと地域に開かれ
たものであってもいいと思います。

地域の音楽センターとして、音楽を習う人
ばかりでなく、そこでコンサートがあったり、
体験会のようなものが、子どもばかりでなく
大人に対してもあったり、あるいはセミナー
があったり、もともとそういう活動ができてい
ものかと。でも考えてみると音楽普及とは、
もともとそういうものなんです。地域で交
流を図るための手段の一つなんですよ。

—— 今後についての対応、展望について

おうかがいします。

村田 既に300を超えるグループ、団体
を支援してきましたが、今の応募状況、水準
が維持される限り継続したいと考えています。
また支援のみならず、長年の活動に対する
表彰制度など、顕彰する制度があってもいい
かもしれません。長年の音楽活動に対して、
これからもがんばって下さいねと讃えること
で、地域の音楽活動を牽引する団体やグルー
プがもっと顕在化してくるのではないかと
思います。

こういう活動が継続して、音楽活動が定着
して行くという方向は、実はもともと楽器業
界は目指していたんだと思います。大人が本
当に手弁当で生き甲斐として活動するケース
は、ここ十数年前から目立って広がってきま
した。

オーケストラやブラスバンド、コーラスな
ど様々なアンサンブル活動は、規模も大小い
ろいろですが、これは長年にわたって地域の
楽器店が取り組んできた音楽普及活動の成果
だと思っています。

その中でも、音楽教室で音楽を学んで活動
してきたということが、大人になって地域の
中でいろんな人達と一緒にあって様々な音楽
活動に繋がってきているんだと思います。こ
れが好循環になってほしいなと期待していま
す。その意味で地域に根を張った楽器店の役
割は大きいですね。我々もそのサポート役と
してがんばらなければと思っています。

—— ますますのご発展を期待しておりま
す。ありがとうございます。